

社会・地理歴史・公民における 目標、見方・考え方、高次の資質・ 能力の在り方等について

目標や見方・考え方、高次の資質・能力の在り方について

論点 1 目標の在り方について

- 論点整理で示された考え方や、社会科等を取り巻く情勢の変化を踏まえ、社会科等の教科・分野・科目等の「目標」、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」についてどのような見直しを行うべきか。

論点 2 見方・考え方の在り方について

- 各科目・分野等の見方・考え方について、総則・評価特別部会で示された方針を踏まえ、その構成の在り方や内容についてどのような見直しを行うべきか。

論点 3 高次の資質・能力の在り方について

- 総則・評価特別部会での考え方を踏まえ、各分野・科目における高次の資質・能力の在り方についてどのように考えるか。

1. 基本的な考え方

- 各科目の背景にある学問的な知見に基づく社会的事象に関する概念を理解し、確かな情報に基づき適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるとともに、資料や概念に基づき、課題発見・解決できる力や自らの考えを客観的に捉え直す力を養うことによって、民主的で持続可能な社会の創り手を育成する。

2. 柱書

- 教育基本法等の理念を踏まえつつ、骨格は引き続き小中高等学校を通じて共通のものとした上で、発達段階や教科の特性を踏まえた表現としてはどうか。
- 現行の「グローバル化する国際社会」という記載については、近年の状況を踏まえれば、所与の前提となっている一方で、将来社会を見据えた際に、地域社会から国際社会まで含めて、その持続可能な社会の形成がより一層求められていることを踏まえて、記載を見直してはどうか。また、「主体的に生きる」ことについても、より多様な他者と「協働的に」生きることが求められることを踏まえて、あわせて記載を見直してはどうか。その際、教科の目標であるという位置付けを踏まえ、できるだけ端的な表現としてはどうか。

赤字：第2回WG後の変更点

青字：学校段階間の相違点

小学校	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、持続可能な社会の形成に向けて、グローバル化する国際社会に主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。
中学校	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、持続可能な社会の形成に向けて、グローバル化する国際社会に主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。
高等学校 地理歴史科	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、持続可能な社会の形成に向けて、グローバル化する国際社会に主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。
高等学校 公民科	社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、持続可能な社会の形成に向けて、グローバル化する国際社会に主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。

教育基本法（平成18年12月22日法律第120号）

第一条 教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。

※学年・分野・科目別目標の在り方

- 小学校の学年別目標については、総則・評価特別部会の議論を踏まえ、提示しないこととしてはどうか。一方、中学校段階の分野別目標と、高等学校段階の科目別目標については、それぞれの特性を表すものとして引き続き記載することとしてはどうか。

青字：教科目標との相違点 赤字：第2回WG後の変更点 下線・取消線：現行からの変更点

3. 知識及び技能

- 知識の概念としての習得や深い意味理解を促す観点から、**社会的事象に関する概念の理解を重視する**方向で見直してはどうか。
※ここでの概念の理解とは、学習する知識を統合して到達する理解をいう。すなわち、指導における単元（内容のまとまり）の知識の獲得目標となるもの。
- 多様な情報が行き交う社会において、「**確かな**」情報に基づき、「**適切かつ**」効果的に調べまといめる技能を身に付ける（小中）に加え、「**妥当性を吟味する**」観点（高）も重視する方向で見直してはどうか。

4. 思考力、判断力、表現力等

- 社会科等の学習過程の特質として、教科目標において「課題を追究したり解決したりする活動」を通して、資質・能力を育成することが明記されている中で、より一層深い学びを具現化する観点から、**自らの考えを客観的に捉え直す力の観点を追記**する方向で見直してはどうか。

5. 学びに向かう力、人間性等

- 「**初発の思考や行動を起こす力・好奇心**」、「**他者との対話や協働**」、「**学びの主体的な調整**」に関する観点を追記してはどうか。

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
小学校	地域や我が国の国土の地理的環境，現代社会の仕組みや働き，地域や我が国の歴史や伝統と文化に 関する学び を通して社会生活について理解するとともに，様々な資料や調査活動を通して 確かな 情報を適切に調べまといめる技能を身に付けるようにする。	社会的事象の特色や相互の関連，意味を多角的に考えたり，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力，考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力， 自らの考えを客観的に捉え直す力 を養う。	社会的事象について，よりよい社会を考え見通しを立てたり， 自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に 問題解決しようとする態度を養うとともに，多角的な思考や理解を通して，地域社会に対する誇りと愛情，地域社会の一員としての自覚，我が国の国土と歴史に対する愛情，我が国の将来を担う国民としての自覚，世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。
中学校	我が国の国土と歴史，現代の政治，経済，国際関係等 に関する学習を通して社会的事象に関する概念について 理解するとともに，調査や諸資料から 確かな様々な情報を適切かつ 効果的に調べまといめる技能を身に付けるようにする。	社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を， 資料や概念などを活用して 多面的・多角的に考察する力や もたり ，社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断 したり する力，思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力， 自らの考えを客観的に捉え直す力 を養う。	社会的事象について，よりよい社会の実現を視野に課題を見だし， 自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に 解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土と歴史に対する愛情，国民主権を担う公民として，自国を愛し，その平和と繁栄を図ることや，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
高校・地理歴史	現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開 に関する学習に関しそを通して社会的事象に関する概念について 理解するとともに，調査や諸資料から 収集した様々な情報について、その妥当性を吟味しながら を適切かつ効果的に調べまといめる技能を身に付けるようにする。	地理や歴史に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連を， 資料や概念などを活用して 多面的・多角的に考察する力や もたり ，社会に見られる課題の解決に向けて構想 したり する力や，考察，構想したことを効果的に説明したり，それらを基に議論したりする力， 自らの考えを客観的に捉え直す力 を養う。	地理や歴史に関わる諸事象について，よりよい社会の実現を視野に課題を見だし， 自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に 解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の国土や歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
高校・公民	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び倫理，政治，経済などに関わる現代の諸課題について理解するとともに，諸資料から 収集した様々な情報について、その妥当性を吟味しながら を適切かつ効果的に調べまといめる技能を身に付けるようにする。	現代の諸課題について，事実を基に 資料や概念などを活用して 多面的・多角的に考察する力や もたり ，解決に向けて公正に判断 したり する力や，合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力， 自らの考えを客観的に捉え直す力 を養う。	よりよい社会の実現を視野に，現代の諸課題を見だし， 自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に 解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される，人間としての在り方生き方についての自覚や，国民主権を担う公民として，自国を愛し，その平和と繁栄を図ることや，各国が相互に主権を尊重し，各国国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

社会科等の目標の在り方③（中学校・分野別目標のイメージ）

論点 1

青字：教科目標との相違点 赤字：第2回WG後の変更点 下線・取消線：現行からの変更点

柱書

中学校	社会科	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、 持続可能な社会の形成に向けて、グローバル化する国際社会に 主体的かつ協動的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。
	地理的分野	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、 持続可能な社会の形成に向けて、グローバル化する国際社会に 主体的かつ協動的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を、 地理に関する 課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。
	歴史的分野	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、 持続可能な社会の形成に向けて、グローバル化する国際社会に 主体的かつ協動的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を、 歴史に見られる 課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。
	公民的分野	現代社会の見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、 持続可能な社会の形成に向けて、グローバル化する国際社会に 主体的かつ協動的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を、 現代社会に見られる 課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
中学校	社会科	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を、 資料や概念などを活用して 多面的・多角的に考察 する力やしなり 、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断 したりする力 、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力、 自らの考えを客観的に捉え直す力 を養う。	社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的 かつ協動的 に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
	地理的分野	我が国の国土 及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な確かな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、 位置や空間的な広がり分布、場所、地域の環境人間と自然環境との相互依存関係、地域間のつながり空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察する力やしなり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力 、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力、 自らの考えを客観的に捉え直す力 を養う。	日本や世界の地域に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的 かつ協動的 に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情、 世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しよう とするものの大切さについての自覚などを深める。
	歴史的分野	我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から 歴史に関する様々な確かな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 歴史に関わる事象の意味や意義、 伝統と文化の特色などを、時系列時期や年代、推移、因果比較、類似と差異相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察する力やしなり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力 、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力、 自らの考えを客観的に捉え直す力 を養う。	歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的 かつ協動的 に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、 国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しよう とするものの大切さについての自覚などを深め、 国際協調の精神を養う。
	公民的分野	個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識し、民主主義、民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動との関わり、現代の社会生活及び国際関係などについて、 個人と社会との関わりを中心に理解を深めるとともに、諸資料から現代の社会的事象に関する確かな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代の 社会生活と関連付けて 多面的・多角的に考察 する力やしなり 、現代社会に見られる課題について 公正に判断したりする力 、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力、 自らの考えを客観的に捉え直す力 を養う。	現代の社会的事象について、 現代社会に見られる課題を見だし、自らの学びを振り返りながらの解決を視野に 主体的 かつ協動的 に 社会に関わろう とする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、 各国が相互に主権を尊重し、各国が協力し合うこと の大切さについての自覚などを深める。

(参考) 現行の中学校学習指導要領 社会科の目標

柱書

青字：教科目標との相違点

中学校	社会科	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。
	地理的分野	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。
	歴史的分野	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。
	公民的分野	現代社会の見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
中学校	社会科	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
	地理的分野	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	日本や世界の地域に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深める。
	歴史的分野	歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深め、国際協調の精神を養う。
	公民的分野	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察したり、現代社会に見られる課題について公正に判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	現代の社会的事象について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わりようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

柱書 青字：教科目標との相違点 赤字：第2回WG後の変更点 下線・取消線：現行からの変更点

高等学校	地理歴史科		社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、 持続可能な社会の形成に向けて、グローバル化する国際社会に 主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を、課題を追及したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。	
	地理総合・地理探究		社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、 持続可能な社会の形成に向けて、グローバル化する国際社会に 主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を、 地理に関する 課題を追及したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。	
	歴史総合・日本史探究・世界史探究		社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、 持続可能な社会の形成に向けて、グローバル化する国際社会に 主体的かつ協働的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を、 歴史に見られる 課題を追及したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。	
知識及び技能			思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高等学校	地理歴史科	現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に 関する学習を通して社会的事象に関する概念について 理解するとともに、調査や諸資料から 収集した様々な情報について、その妥当性を吟味しながらを 適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、 資料や概念 などを活用して多面的・多角的に考察 する力や、 社会に見られる課題の解決に向けて構想 したりする力や、 考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力、 自らの考えを客観的に捉え直す力 を養う。	地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的 かつ協働的に 解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
	地理総合	地理に関わる諸事象に関して、 世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを 理解するとともに、 地図や地理情報システムなどを用いて、 調査や諸資料から 収集した地理に関する様々な情報について、その妥当性を吟味しながらを 適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、 位置や空間的な広がりが分布、場所、地域、環境人間と自然環境との相互依存関係、地域間のつながり空間的相互依存作用、地域などに着目して、 概念などを活用して多面的・多角的に考察 する力や、 地理的な課題の解決に向けて構想 したりする力や、 考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力、 自らの考えを客観的に捉え直す力 を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に そこで見られる 課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的 かつ協働的に 追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、 世界の諸地域の多様な生活文化を 尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深める。
	地理探究	地理に関わる諸事象に関して、 世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを 理解するとともに、 地図や地理情報システムなどを用いて、 調査や諸資料から 収集した地理に関する情報について、その妥当性を吟味しながらを 適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、 位置や空間的な広がりが分布、場所、地域、環境人間と自然環境との相互依存関係、地域間のつながり空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、 概念などを活用して多面的・多角的に考察 する力や、 地理的な課題の解決に向けて構想 したりする力や、 考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力、 自らの考えを客観的に捉え直す力 を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に そこで見られる 課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的 かつ協働的に 探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、 世界の諸地域の多様な生活文化を 尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深める。
	歴史総合	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、 世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、 現代的な諸課題の形成に関わる 近現代の歴史を 理解するとともに、諸資料から 収集した歴史に関する様々な情報について、その妥当性を吟味しながらを 適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、 時系列時期や年代、推移、因果比較、類似と差異相互の関連 や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察 する力や、 歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想 したりする力や、 考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力、 自らの考えを客観的に捉え直す力 を養う。	近現代の歴史の 変化 に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的 かつ協働的に 追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の 歴史 に対する愛情、 他国や他国の文化を 尊重することの大切さについての自覚などを深める。
	日本史探究	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、 地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて 理解するとともに、諸資料から 収集した我が国の歴史に関する様々な情報について、その妥当性を吟味しながらを 適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、 伝統と文化の特色などを、時系列時期や年代、推移、因果比較、類似と差異相互の関連 や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察 する力や、 歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想 したりする力や、 考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力、 自らの考えを客観的に捉え直す力 を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的 かつ協働的に 探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
	世界史探究	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、 地理的条件や日本の歴史と関連付けながら 理解するとともに、諸資料から 収集した世界の歴史に関する様々な情報について、その妥当性を吟味しながらを 適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、 時系列時期や年代、推移、因果比較、類似と差異相互の関連 や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察 する力や、 歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想 したりする力や、 考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力、 自らの考えを客観的に捉え直す力 を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的 かつ協働的に 探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

(参考) 現行の高等学校学習指導要領 地理歴史科の目標

柱書

青字：教科目標との相違点

高等学校	地理歴史科	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
	地理総合・地理探究	社会的 事象の地理的 な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
	歴史総合・日本史探究・世界史探究	社会的 事象の歴史的 な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高等学校	地理歴史科	地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
	地理総合	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、 位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して 、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、 地理的な課題の解決に向けて 構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に そこで見られる課題を主体的に追究 、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、 世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする ことの大切さについての自覚などを深める。
	地理探究	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、 位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して 、 系統地理的、地誌的に 、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、 地理的な課題の解決に向けて 構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に そこで見られる課題を主体的に探究 しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、 世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする ことの大切さについての自覚などを深める。
	歴史総合	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して 、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、 歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて 構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	近現代の歴史の変化に関わる事象について 、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に 追究 、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の 歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さ についての自覚などを深める。
	日本史探究	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、 伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して 、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、 歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて 構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる事象について 、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に 探究 しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
	世界史探究	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して 、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、 歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて 構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象について 、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に 探究 しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

柱書 青字：教科目標との相違点 赤字：第2回WG後の変更点 下線・取消線：現行からの変更点

高等学校	公民科	社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、 持続可能な社会の形成に向けて、グローバル化する国際社会に主体的かつ協働的に 生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。
	公共	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、 持続可能な社会の形成に向けて、グローバル化する国際社会に主体的かつ協働的に 生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を、 現代 の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。
	倫理	人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、 持続可能な社会の形成に向けて、グローバル化する国際社会に主体的かつ協働的に 生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を、 現代の倫理的 諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。
	政治・経済	社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、 持続可能な社会の形成に向けて、グローバル化する国際社会に主体的かつ協働的に 生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を、 現実社会に見られる複雑な 諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高等学校 公民科	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解するとともに、諸資料から 収集した様々な情報について、その妥当性を吟味しながら を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	現代の諸課題について、事実を基に 資料や 概念などを活用して多面的・多角的に考察する力や たり 、解決に向けて公正に判断したる力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力、 自らの考えを客観的に捉え直す力 を養う。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を見だし、 <u>自らの学びを振り返りながら</u> 主体的 かつ協働的に 解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚や、民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から 収集した、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報について、その妥当性を吟味しながら を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	現実社会の 諸課題の 解決に向けて、 選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力、 自らの考えを客観的に捉え直す力 を養う。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を見だし、 <u>自らの学びを振り返りながら</u> 主体的 かつ協働的に 解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、 現代社会に生きる 人間としての在り方生き方についての自覚や、 公共的な空間に生き 民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
	古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から 収集した、人間としての在り方生き方に関わる情報について、その妥当性を吟味しながら を調べまとめる技能を身に付けるようにする。	自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力、 自らの考えを客観的に捉え直す力 を養う。	人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、 現代社会に生きる 人間としての在り方生き方についての自覚を深める。
	社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から 収集した、社会の在り方に関わる情報について、その妥当性を吟味しながら を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、 現実社会に見られる複雑な課題を把握し、考察説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力、自らの考えを客観的に捉え直す力 を養う。	よりよい社会の実現のために 現実社会の 諸課題を見だし、 <u>自らの学びを振り返りながら</u> 主体的 かつ協働的に 解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、 我が国及び国際社会において 国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。

(参考) 現行の高等学校学習指導要領 公民科の目標

柱書

青字：教科目標との相違点

高等学校公民	公民科	社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
	公共	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
	倫理	人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
	政治・経済	社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高等学校公民	公民科	現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
	公共	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
	倫理	自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力を養う。	人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める。
	政治・経済	社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。

1. 前提

- **見方・考え方**（どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのかというその教科等ならではの物事を捉える視点や考え方）については、これまで以下の①及び②の側面から説明されてきた。
 - ・**側面① 各教科等の学びの深まりを示す**
教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせることで深い学びが実現され、よりよく資質・能力を育成でき、資質・能力の育成により「見方・考え方」が一層豊かになる
 - ・**側面② 各教科等を学ぶ本質的な意義の中核を示す**
学びを通じてどのような教科等固有の世の中を見る視点や考え方が身につくのかを示すことにより、教科等を学ぶ本質的な意義を明らかにし、学びをよりよい社会や幸福な人生に繋げていく役割がある
- 一方、教育課程企画特別部会の論点整理においては、「見方・考え方」の**側面①「各教科等の学びの深まり」は、「中核的な概念等」（高次の資質・能力）による資質・能力の構造化によって一層具体的に示し、「見方・考え方」自体は、側面②「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核」に焦点化してより端的に示していく**こととする方向で検討すべきこととされた。

2. 方向性

- 上記の考え方を踏まえ、**以下の方向で整理することとしてはどうか。**
 - ・ **新たな「見方・考え方」**については、側面②の「各教科等を学ぶ本質的な意義」という観点を踏まえ、**各分野・科目の本質を示す事項に焦点化**して端的に示す。
 - ・ 一方、従前の「見方・考え方」で示していた**側面①「各教科等の学びの深まり」を促す事項**については、**高次の資質・能力の中において構造化の中で内容に即して具体的に示す。**
 - ・ なお、新たな「見方・考え方」については、分野・科目の特性に応じて示す方がより本質的な意義が明確となることから、**分野・科目間の統一はしない。**一方、社会科・地理歴史科・公民科の教科目標において統一性をもたせることを踏まえ、必要に応じて、**それぞれの「見方・考え方」を相互に参照する**ことも併せて示す。

現行の記載

側面①「各教科等の学びの深まりを示す」観点と、側面②「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核を示す」観点が混在

<地理>

○見方・考え方

見方・考え方

- ・位置や空間的な広がり
- ・地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付ける

- ※H28答申「社会的な見方・考え方」を働かせたイメージ例より
- 位置や分布に関わる視点（絶対的、相対的、地域差など）
 - 場所に関わる視点（自然的、社会的など）
 - 人間と自然の相互依存関係に関わる視点（環境依存性、伝統的、改変、保全など）
 - 空間相互依存作用に関わる視点（関係性、相互性 など）
 - 地域に関わる視点（一般的共通性、地方的特殊性 など）

<歴史>

○見方・考え方

見方・考え方

- ・時期、推移など
- ・類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付ける

- ※H28答申「社会的な見方・考え方」を働かせたイメージ例より
- 時系列に関わる視点（時期、年代など）
 - 諸事象の推移に関わる視点（展開、変化、継続など）
 - 諸事象の比較に関わる視点（類似、差異、特色など）
 - 事象相互のつながりに関わる視点（背景、原因、結果、影響など）

見直し案

- ・ **新しい見方・考え方**については、側面②「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核を示す」観点として、**当該分野等の本質を示す事項に焦点化**。
- ・ **高次の資質・能力**については、側面①「各教科等の学びの深まりを示す事項」として、知識及び技能や、思考力、判断力、表現力等の内容に即して**具体的に示す**こととはどうか。

○新しい見方・考え方

見方・考え方

- ・位置や空間的な広がり、**地域の環境、地域間のつながり**など
- ・よりよい社会の形成に向けて課題を考え、**根拠に基づき公正に判断すること**

○高次の資質・能力での記載事項

- 位置や分布（**位置や空間的な広がり**に関わる視点）
- 場所（**空間的な広がり**に関わる視点）
- 人間と自然環境との相互依存関係（**地域の環境**に関わる視点）
- 空間的相互依存作用（**地域間のつながり**に関わる視点）
- 地域（**位置や空間的な広がり、地域の環境、地域間のつながり**に関わる視点）

○新しい見方・考え方

見方・考え方

- ・時系列や推移、**因果、過去の歴史との類似や差異**など
- ・よりよい社会の形成に向けて課題を考え、**根拠に基づき公正に判断すること**

○高次の資質・能力での記載事項

- 時期や年代（**時系列**に関わる視点）
- 展開や変化（諸事象の**推移**に関わる視点）
- 共通点や相違点（過去の歴史との**類似や差異**に関わる視点）
- 背景や原因、結果や影響（**因果**に関わる視点）

教科科目・分野	現行の記載	見直し案
小学校社会	【社会的事象の見方・考え方】 社会的事象を、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること	社会的事象やその言説を、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を考え、根拠に基づき公正に判断すること
中学校社会 (地理的分野)	【社会的事象の地理的な見方・考え方】 社会的事象を位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること	社会的事象やその言説を、位置や空間的な広がり、地域の環境、地域間のつながりなどに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を考え、根拠に基づき公正に判断すること
高等学校地理歴史 (地理総合・地理探究)	【社会的事象の地理的な見方・考え方】 社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること	
中学校社会 (歴史的分野)	【社会的事象の歴史的な見方・考え方】 社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付けたりすること	社会的事象やその言説を、時系列や推移、因果、過去の歴史との類似や差異などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を考え、根拠に基づき公正に判断すること
高等学校地理歴史 (歴史総合、日本史探究、世界史探究)	【社会的事象の歴史的な見方・考え方】 社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付けたりすること	
中学校社会 (公民的分野)	【現代社会の見方・考え方】 社会的事象を政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること	社会的事象やその言説を、政治、法、経済などに関わる概念や理論などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を考え、根拠に基づき公正に判断すること
高等学校公民 (公共)	【人間と社会の在り方についての見方・考え方】 社会的事象等を、倫理、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築や人間としての在り方生き方についての自覚を深めることに向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること	社会的事象やその言説を、倫理、政治、法、経済などに関わる概念や理論などに着目して捉え、人間としての在り方生き方についての自覚を深めることや、よりよい社会の形成に向けて課題を考え、根拠に基づき公正に判断すること <div> (見方・考え方) ●●(当該教科で扱う事象や対象)を●●(当該教科固有の物事を捉える視点)の視点から捉え(に着目して捉え)、●●(当該教科固有の考え方や判断の仕方)すること。 </div>
高等学校公民 (倫理)	【人間としての在り方生き方についての見方・考え方】 社会的事象等を、倫理、哲学、宗教などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、人間としての在り方生き方についての自覚を深めることに向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること	
高等学校公民 (政治・経済)	【社会の在り方についての見方・考え方】 社会的事象等を、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること	



「見方・考え方」の現在の位置付け

- 前回改訂では、「社会に開かれた教育課程」を理念に掲げ、これからの社会で生きていくための資質・能力を身に付けるための学びの過程として「主体的・対話的で深い学び」を提起した
- 一方、「主体的・対話的で深い学び」だけでは、
 - ① 各教科等の深い学びの具体的な姿がイメージしにくい
 - ② 各教科等の学びにより、人生や社会との関わりがどう豊かになるのかイメージしにくい 等の懸念が生じた

このため

- 資質・能力と教科等の学びを架橋するため、「見方・考え方」を提起し、各教科等の目標の一部として位置付けた（詳細は解説で記載した）

【定義】どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのかというその教科等ならではの物事を捉える視点や考え方

- 上記①②に対応し2つの側面で説明されてきており、授業改善に一定の成果があったといえる

側面① 各教科等の学びの深まりを示す

教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせることで深い学びが実現され、よりよく資質・能力を育成でき、資質・能力の育成により「見方・考え方」が一層豊かになる

側面② 各教科等を学ぶ本質的な意義の中核を示す

学びを通じてどのような教科等固有の世の中を見る視点や考え方が身につくのかを示すことにより、教科等を学ぶ本質的な意義を明らかにし、学びをよりよい社会や幸福な人生に繋げていく役割がある



課題と方向性

令和7年9月25日
教育課程企画特別部会
論点整理 P 20

1. 当初の役割を十分に果たせていない

- 見方・考え方は各教科等の目標の一部になっているが、その具体は、解説を読まないと分からない
- 教科等によっては解説の記載が複雑かつ抽象的で分かりにくい（「見方・考え方」が①「各教科等の学びの深まり」と②「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核」という2つの側面を有していることも影響）

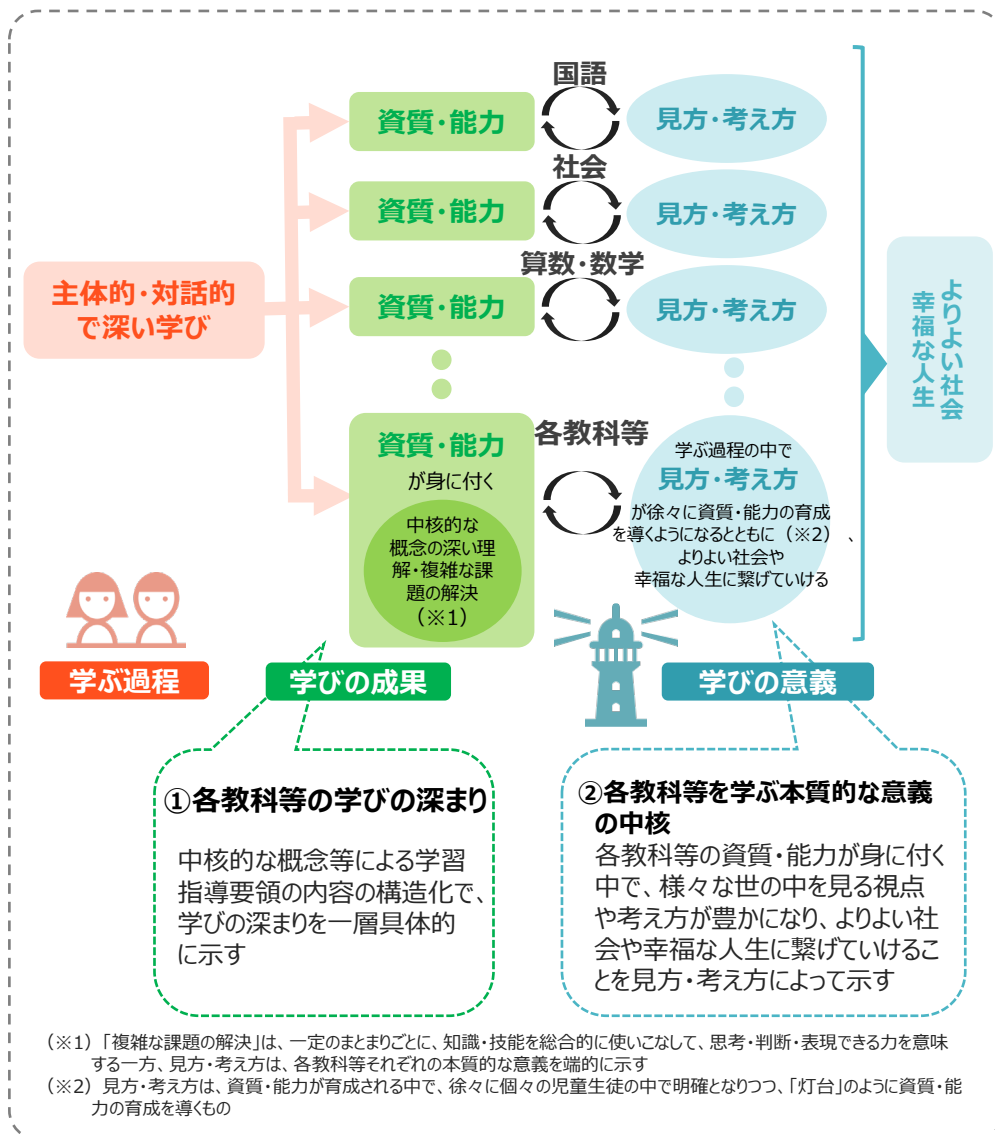
2. 「中核的な概念等」との整理が必要

- 第2・3回の特別部会では、各教科等の「中核的な概念等」の視点から
 - (1) 個別の知識及び技能が相互に関連づけられた「教科の主要な概念の深い理解」
 - (2) 個別の思考力、判断力、表現力を総合的に働かせた「複雑な課題の解決」を抽出し、一層の構造化を図ることとした
- この方針で進める場合、「見方・考え方」（とりわけ側面①各教科等の学びの深まり）との重複感が出る

これらを踏まえると

- 「見方・考え方」の側面①「各教科等の学びの深まり」は、「中核的な概念等」による資質・能力の構造化によって一層具体的に示し、
- 「見方・考え方」自体は、側面②「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核」に焦点化してより端的に示していくこととする方向で検討すべき

今後の見方・考え方の役割の改善イメージ



改善イメージ

目標

～以下の資質・能力を育成することを目指す。
（目標での見方・考え方の記載ぶりは別途検討）

（例）事象を、数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的に考える

知・技

思・判・表

学・人

②本質的意義

教科の本質的な意義に焦点化して端的に示すことで教科を学ぶ本質的な意義を分かりやすく本則上で示すことができる

内容

中核的な概念の深い理解（仮）

複雑な課題の解決（仮）

①学びの深まり

学びの深まりは中核的な概念等による構造化の中で、内容に即して具体的に示す

（例）関数を使えば未知の状況を予測できる

知・技

（例）比例・反比例の理解、一次方程式の解き方

（例）現実の事象を数式でモデル化し、未知の状況を予測して、具体的な解決策を選択する

思・判・表

（例）二つの数量の変化・対応関係を見出し、式やグラフを用いて考察する

※従前の見方・考え方の整理は、見方・考え方が資質・能力の一部と誤解される遠因となっていたことから改善を図り、見方・考え方は、資質・能力（中核的な概念等を含む）の育成を的確な方向性に導くとともに、よりよい社会や幸福な人生に繋がっている学びの本質的な意義として整理する

検討項目① 見方・考え方

令和7年10月14日
総則・評価特別部会
資料1-1 P3
(会議意見反映版)

1. 見方・考え方を含む目標の柱書きの示し方と改善の方向性

【現行】各教科等の目標の柱書（例：中学校国語）

言葉による見方・考え方を働かせ（見方・考え方）、言語活動を通して（学習過程）、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力（資質・能力の趣旨）を次のとおり育成することを目指す

【現行の解説】見方・考え方の記述

「対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること」

<現行の記述ぶりの課題>

- 現在、各教科等の目標の柱書には、①見方・考え方、②教科に特徴的な活動、③資質・能力の趣旨が記載されており、冗長で分かりにくいとの指摘。一方、特に「見方・考え方」の具体は解説に落とされており、併せて読まないで分からない。

<論点整理で示されたこと>

- 論点整理では、「見方・考え方」を、各教科等を学ぶ本質的な意義の中核に焦点化した上で、その具体を、解説ではなく学習指導要領本体に位置付ける方向性を示している
- また、論点整理では、「見方・考え方」の意義について、「教科固有の様々な世の中を見る視点や考え方が豊かになることで、徐々に資質・能力の育成を導く」といった観点だけでなく、「よりよい社会や幸福な人生に繋げる」ものと位置付けており、学校教育のみならず、その後の人生でも豊かに働くことを視野に入れている

分かりやすく、使いやすいを目指す上で

- 特定の学校種・教科で育成したい資質・能力の趣旨等を端的に表す目標の柱書に、卒業後まで視野に入れた見方・考え方まで含めて書き下すと焦点が定まらなくなる
- 目標の柱書は、育成したい資質・能力の趣旨や固有の学習過程を端的に示すべきであり、見方・考え方は、目標直下に別途欄を設け記載してはどうか

2. 1.を踏まえた書きぶり（イメージ）

（目標）

- ● する資質・能力（資質・能力の趣旨）について、● ● することなどを通して（学習過程）、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
--------	--------------	--------------

（見方・考え方）

- ● （当該教科で扱う事象や対象）を● ● （当該教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え（に着目して捉え）、● ● （当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること。

（見方・考え方に含める要素）

- 見方・考え方については、以下のような要素を含めることを基本に、各教科等の特質に応じて検討してはどうか
 - ① 当該教科等が扱う事象や対象
 - ② 当該教科固有の物事を捉える視点
 - ③ 当該教科固有の考え方や判断の仕方
- これらの要素を示す事により、教師が児童生徒の学習・指導を構想する際に「教科の本質を外していないか」を確かめられるものとなっているかという視点を大切にすることが重要ではないか

（見方・考え方の書きぶりに共通する留意事項）

- これまで各教科等の見方・考え方の書きぶりで示していた各教科等の深まりの鍵を示す部分は、構造化により示す中核的な概念等を通じて示すこととしているため、新たな見方・考え方の書きぶりについては現在よりも短く端的に示すことを基本としてはどうか
- 当該教科等を学ぶ本質的な意義の中核をわかりやすく示す観点からは、経験の浅い教師が読んでも端的に理解可能な記述となっているかという視点を重視して示し方を検討してはどうか（学習・指導を通じて、最終的に児童生徒が意識できるかという点も留意）

1. 総則・評価特別部会での議論

総則・評価特別部会においては、中核的な概念等を「高次の資質・能力（※）」と位置付けた上で、以下の通り整理。

- 「知識及び技能の統合的な理解」「思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮」を示すことについては、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」の深まりの可視化を通じて「深い学び」を実現する単元づくりのイメージを教師が持てるようにする役割を担うもの。
- 各教科等の独自性を生かしつつ、共通に備えるべき要素や性質等が確保された「高次の資質・能力」を担保するチェックポイント（p19参照）として、以下の4つの視点が提示。
 - A：教科等の本質的意義の中核に照らした重要性の観点
 - B：資質・能力の深まりを示す観点
 - C：深い学びを実現する単元づくりを助ける観点
 - D：分かりやすさ等の観点

※論点整理では「知識及び技能」の深まりを示すものを「中核的な概念の深い理解」、「思考力、判断力、表現力等」の深まりを示すものを「複雑な課題の解決」と仮称し、それらをまとめて「中核的な概念等」と呼んでいたが、その後の総則・評価特別部会において、新たな用語が増えることを避けるため現行でも用いられている言葉として「高次の資質・能力」と呼ぶこととされた。

2. 方向性

左記の考え方を踏まえつつ、社会科等においては以下の方針で高次の資質・能力として整理することとしてはどうか。

- 社会科等における高次の資質・能力については、
 - ① 社会科の目標や本質的な意義（見方・考え方）から演繹的に導かれる側面と、
 - ② 個別の学習内容をより深く習得するために帰納的に導かれる側面の両面から検討を行う。
- 内容のまとまりを通じて獲得してほしい統合的な理解や総合的な発揮として、「深い学び」を実現する単元づくりのイメージを教師が持てるようにするため、原則、各分野・科目の各内容項目（中項目）ごとに構成する。
- 上記を踏まえつつ、社会科・地理歴史科・公民科を通した「知識及び技能の統合的な理解」「思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮」の基本的な捉え方については、以下3.参照。

3. 社会科における指導の改善・充実に向けた高次の資質・能力の基本的な捉え方

【知識及び技能に関する統合的な理解】

- 単元指導計画において、単元（内容のまとまり）のねらいとなるものであり、思考・判断・表現に関わる学習の過程を通して集積・統合された概念的な知識（概念化された理解）や概念的な枠組みを用いた理解と考えてはどうか。

【思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮】

- 基本的には、社会的事象を捉える視点や方法（現行の見方・考え方）（*）を総合的に働かせた考察・構想の過程、形成される判断の基準、省察された表現を示したものとして考えてはどうか。
 - * 地理的分野・地理領域科目の例
位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域 等

「資質・能力の深まり」と「資質・能力の一体的育成」の可視化による「深い学び」の具現化

教育課程企画特別部会
論点整理P12を更新

- 知識の理解も、それが生きて働くように深く学ぶことが重要。思考力、判断力、表現力等も、社会や生活で直面する未知の状況でも課題解決に繋げていけるよう「質」を高めることが重要（**資質・能力の「深まり」**）
- ある程度の知識・技能なしに思考・判断・表現することは難しいし、思考・判断・表現を伴う学習活動なしに、知識の深い理解と技能の確かな定着は難しい（**資質・能力の「一体的育成」**）
→こうした「**資質・能力の深まり**」と「**資質・能力の一体的育成**」を学習指導要領上で可視化することにより、**資質・能力の関係性の理解や、それらを一体的に育成するための教師の単元づくりを助け、「深い学び」を授業で具現化しやすくする**

＜生きて働く＞

知識及び技能

他の学習や生活の場面でも活用できる

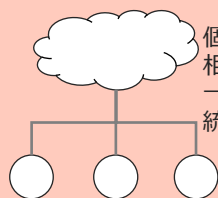
高次の資質・能力

知識及び技能に関する統合的な理解

個別の知識や技能が相互に関連付けられて一般化され、統合的な理解となった姿

（例）関数を使えば未知の状況を予測できる

資質・能力の
「深まり」の
可視化



個別の知識や技能が相互に関連付けられて一般化されながら統合的に理解される

個別の知識や技能

（例）
・比例・反比例の理解
・一次方程式の解き方
・二元一次方程式を関数としてみなせることの理解
・現実の事象を関数でモデル化できることの理解
・二次関数でモデル化できる事象があることの理解

資質・能力の
「一体的育成」
の可視化



＜未知の状況にも対応できる＞

思考力、判断力、表現力等

知識・技能を活用しながら、未知の場面でも課題を解決できる

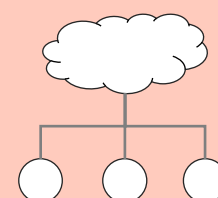
高次の資質・能力

思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮

複雑な課題の解決に向けて、個別の思考力、判断力、表現力等を組み合わせたり選んだりして総合的に働かせた姿

（例）現実の事象を数式でモデル化し、未知の状況を予測して、具体的な解決策を選択する

資質・能力の
「深まり」の
可視化



複雑な課題の解決に向けて、個別の思考力、判断力、表現力等を総合的に働かせる

個別の思考力、判断力、表現力等

（例）
・二つの数量の変化・対応関係を見だし、式やグラフを用いて考察する
・現実の事象にある二つの数量の関係を関数と仮定して処理したりその結果に基づいて判断する

※「高次の資質・能力」は、個別の資質・能力が深まることで至る、「統合的な理解」や「総合的な発揮」を指し示すものであり、個別の資質・能力との関係で重要性の軽重を意味するものではない。

「高次の資質・能力」を検討する上でのチェックポイント（案）

【A 教科等の本質的意義の中核に照らした重要性の観点】

- ・目標の達成に資する上で重要であるとともに、各教科等の本質的意義の中核（「見方・考え方」）に照らし適切なものであるといえるか

【B 資質・能力の深まりを示す観点】

- ・要素となる個別の資質・能力の「深まり」を示す事ができているか。具体的には、内容のまとまりを単に要約した「見出し」に留まるのではなく、個別の資質・能力が児童生徒の中で相互に関連付けられて、統合的に獲得された際の姿を示すことができているか
- ・要素となる個別の資質・能力を学ぶことの意義（※）や、それを広く社会において、いつ、どのような文脈で活用することができるのか、を教師がイメージしやすいものとなっているか

（※）学ぶことの「意義」は必ずしも実生活における実用的な側面にとどまらない点に留意

【C 深い学びを実現する単元づくりを助ける観点】

- ・教師が単元構想時に、「知識及び技能の統合的な理解」と、それにぶら下がる個別の「知・技」、「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」と、それにぶら下がる個別の「思・判・表」とを往還して参照した際、単元を通じて児童生徒が追究する本質的な「問い」を構想する上で参考になるか
- ・教師が単元構想時に、「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」と、それにぶら下がる個別の「思・判・表」とを往還して参照した際、論述・レポート・発表・作品製作等、単元を通じて児童生徒が資質・能力を総合的に発揮しながら取り組む課題を構想する上で参考になるか

【D 分かりやすさ等の観点】

- ・経験の浅い教師も含めて、一人一人の教師にとって、分かりやすく、使いやすいことに加え、教科等の面白さや魅力が伝わる文言となっているか（学習・指導を通じて、最終的には児童生徒自身が掴むことができる必要があるという点も留意）
- ・学校種・学年等、発達段階に即して妥当なものとなっているか（系統性等の重視により、発達段階に照らし過度に抽象的となっていないか等）

B 世界の様々な地域		※統合的な理解や総合的な発揮は今後大幅な修正の可能性あり。
(1)世界の各地の人々の生活と環境	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○世界の多様な地域を対象として、世界の人々の生活が環境からどのように影響を受け、どのように場所に影響を与えているかを理解する。	○世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、人間と自然環境との相互依存関係に関わる視点に着目して多面的・多角的に考察し、表現する。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア)人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすること (イ)世界の人々の生活や環境の多様性と、世界の主な宗教の分布	世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現する
(2)世界の諸地域	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○世界各州の地域の広がりや地域内の結びつきを対象として、世界の諸地域にどのような特色があり、地域内で見られる地球的課題と地域的特色はどのように関係しているのかを理解する。	○空間的相互依存作用や地域などに着目して、世界の各州において、地域的特色を多面的・多角的に考察し、表現する。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	①アジア ②ヨーロッパ ③アフリカ ④北アメリカ ⑤南アメリカ ⑥オセアニア (ア)世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なること (イ)世界の各州に暮らす人々の生活を基とした、各州の地域的特色（の大観）	①アジア ②ヨーロッパ ③アフリカ ④北アメリカ ⑤南アメリカ ⑥オセアニアの各州を取り上げ、主題を設けて、①から⑥までの世界の各州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する

B 近世までの日本とアジア

※統合的な理解や総合的な発揮は今後大幅な修正の可能性あり。

(1)古代までの日本	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	<p>○列島周辺地域との関係を背景に、どのように日本列島に国家が形成され、特徴的な文化が育まれたかについて理解する。</p>	<p>○時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目して、古代までの日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現する。</p>
	<p>(ア) （世界の古代文明や宗教のおこり） ・世界の各地で文明が築かれたことを理解する。 ①世界の古代文明 ②宗教のおこり</p> <p>(イ) （日本列島における国家形成） ・東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解する。 ①日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰 ②大和朝廷（大和政権）による統一の様子と東アジアとの関わり</p> <p>(ウ) （律令国家の形成） ・東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解する。 ①律令国家の確立に至るまでの過程 ②摂関政治</p> <p>(エ) （古代の文化と東アジアとの関わり） ・国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解する。 ①仏教の伝来とその影響 ②仮名文字の成立</p>	<p>(ア) 古代文明や宗教が起こった場所や環境などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、世界の古代文明や宗教のおこりについて、多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>(イ) 農耕の広まりや生産技術の発展、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本列島における国家形成について、多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>(ウ) 東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、律令国家の形成について、多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>(エ) 東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、古代の文化と東アジアとの関わりについて、多面的・多角的に考察し、表現する。</p>

B 近世までの日本とアジア

※統合的な理解や総合的な発揮は今後大幅な修正の可能性あり。

	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○列島周辺地域との関係やユーラシアの状況を背景に、武家政治が公家や宗教を含めた多様な勢力の中で展開したことや、どのような社会や文化が形成されたのかについて理解する。	○時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目して、中世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現する。
(2) 中世の日本	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	<p>(ア) （武家政治の成立とユーラシアの交流）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まった、また、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解する。 <ol style="list-style-type: none"> ① 鎌倉幕府の成立 ② 元寇（モンゴル帝国の襲来） <p>(イ) （武家政治の展開と東アジアの動き）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解する。 <ol style="list-style-type: none"> ① 南北朝の争乱と室町幕府 ② 日明貿易と琉球の国際的な役割 <p>(ウ) （民衆の成長と新たな文化の形成）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解する。 <ol style="list-style-type: none"> ① 農業など諸産業の発達 ② 畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立 ③ 武士や民衆などの多様な文化の形成 ④ 応仁の乱後の社会的な変動 	<p>(ア) 武士の政治への進出、東アジアにおける交流などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、武家政治の成立とユーラシアの交流について、多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>(イ) 武士の政治の展開、東アジアにおける交流などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、武家政治の展開と東アジアの動きについて、多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>(ウ) 農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、民衆の成長と新たな文化の形成について、多面的・多角的に考察し、表現する。</p>

C 私たちと政治

※統合的な理解や総合的な発揮は今後大幅な修正の可能性あり。

(1) 人間の尊重と日本国憲法の基本的原則	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○憲法の意義について、個人の尊重などの現代社会を捉える概念的な枠組みを用いて理解した上で、それと関連付けて、日本国憲法の基本原理について理解する。	○対立と合意，効率と公正，個人の尊重と法の支配，民主主義などの現代社会を捉える概念的な枠組みに着目して，個人が尊重され協働の利益が確保される国家・社会を形成するために憲法が果たす意義について，具体的な事例を挙げて，考察し，表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	(ア)人間の尊重についての考え方を，基本的人権を中心に深め，法の意義 (イ)民主的な社会生活を営むためには，法に基づく政治が大切であること (ウ)日本国憲法が基本的人権の尊重，国民主権及び平和主義を基本的原則としていること (エ)日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に関する行為	対立と合意，効率と公正，個人の尊重と法の支配，民主主義などに着目して， ・我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し，表現する
(2) 民主政治と政治参加	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○国民の政治参加の意義について、個人の尊重などの現代社会を捉える概念的な枠組みを用いて理解した上で、地方自治や我が国の民主政治の考え方について理解する。	○対立と合意，効率と公正，個人の尊重と法の支配，民主主義などの現代社会を捉える概念的な枠組みに着目して，主権者として個人が議論に参加し，意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通してよりよい社会を形成するために国民の政治参加が果たす意義について，具体的な事例を挙げて，考察，構想し，表現することができる。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	対立と合意，効率と公正，個人の尊重と法の支配，民主主義などに着目して，社会に参画する主体として，地方自治や我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自覚や住民としての自治意識の基礎を育成することに向けて， (ア)国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割 (イ)議会制民主主義の意義，多数決の原理とその運用の在り方 (ウ)国民の権利を守り，社会の秩序を維持するために，法に基づく公正な裁判の保障があること (エ)地方自治の基本的な考え方について理解すること。その際，地方公共団体の政治の仕組み，住民の権利や義務 (オ)現代社会に見られる課題に関わる諸資料から，社会に参画する主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し，読み取り，まとめる技能	・民主政治の推進と，公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察，構想し，表現する